

佛教大学大学院紀要「教育学研究科篇」投稿規程

平成 31 年 4 月 1 日改正施行

I. 投稿資格

「佛教大学大学院紀要 教育学研究科篇」

- (1) 本学大学院教育学研究科(修士課程・博士後期課程。通信教育課程を含む) 在籍者および修了者、研究員。ただし、本学の専任教員は除く。
- (2) 大学院在籍者は、指導教員から投稿の承認を得ていること。修了者は、指導教員または専門領域の近い本学の在籍専任教員の承認を得ていること。
- (3) 共著の場合、筆頭執筆者は(1)の規定を満たす者とする。
- (4) 論題申込期間内に投稿申込書を提出した者。

申込期間：7 月 21 日～8 月 31 日

II. 採択

- (1) 「佛教大学大学院紀要 教育学研究科篇」に投稿された「論文」および「研究ノート」(以下、「論文等」という) 等については、査読を行う。掲載の可否については、査読結果の報告を受けて、教育学部編集会議(以下、「編集会議」という) が決定する。査読の詳細については、別途、内規を定める。
- (2) 編集会議は編集長、編集員(編集長が指名、若干名)で構成する。
- (3) 査読者は編集長が委嘱する。査読者は、それぞれの論文等に対して、2 名を原則とする。査読者の選定は、原則として教育学研究科の教員の中から、投稿された論文等のテーマ・内容・分野を勘案して、個別に定める。場合によっては、教育学部所属教員、他の学部・研究科の教員、学外の専門家に委嘱する。ただし、投稿者の指導教員は、査読に携わらないものとする。

III. 執筆要領

1. 原稿の執筆

- (1) 原稿は、未発表の原稿とする。
- (2) 原稿は、一人 1 編とする。
- (3) 著述の種類は、「論文」「研究ノート」「翻訳」および「その他」とする。
- (4) 分量は、42 字×34 行の設定で 18 枚以内(図・表・写真なども含む)とする。欧文による原稿も同様の枚数とする。

2. 原稿の提出

- (1) 原稿は完成稿とする。
- (2) 原稿は、word 等を入力し、E メールまたは CD-R 等でデジタルデータをあわせて提出する。
- (3) 投稿論文付票に、論題(英文論題併記)および執筆者名(ローマ字併記)、所属名等所定の必要事項を記入する。英文論題は、編集会議にて修正することがある。
- (4) 原稿は 2 部作成し、学術支援課提出以外に執筆者の下に 1 部保管すること。
- (5) 原稿の提出期間は、9 月 1 日～9 月 30 日(休日の場合はその翌日)とする。

3. 原稿の掲載

原稿の掲載順については、編集長が決定する。

4. 原稿の形式

- (1)原則として Microsoft Word で作成し、縦置き A 4 の用紙に横書きとし、42 字×34 行の設定でプリントすること。あわせて、データも提出する。
- (2)図表は原稿の本文中に組み込んだ状態またはレイアウトを明示し、別に図表のみのデータを添付する。
- (3)引用文献等は脚注とせず、本文中の該当箇所に通し番号を付し、本文末に「注」としてまとめて記す。記載方法は (5) のとおり。
- (4)投稿原稿には「抄録」（日本語の場合、400 字以内。欧文の場合は 200 語以内）と「キーワード」（5 ワード以内）を付すこと。「抄録」には、論文の目的、主題、方法、結論等を盛り込む。「キーワード」は検索の手がかりとなる内容を示す語として、主として標題および抄録から抽出する。
- (5)投稿原稿の構成要素および記載順序は次の通りとする。

標 題
著者名
抄 録 （日本語：400 字以内、欧文：200 語以内） キーワード（5 ワード以内）
本 文 設定 42 字×34 行
[注] [参考文献] [付記]（必要のある場合のみ） (著者名(ひらがな)・教育学研究科〇〇専攻〇〇課程/修了) (指導教員：〇〇 〇〇)

- (6)注および引用文献の記述形式は、次のいずれかとする。

[A]人文科学系

原則として、補足説明、参考文献、引用文献など全てについて、本文中の該当箇所に通し番号を付し、本文末に「注」として出現順にまとめて記す。「注」の記述方法は、文章もしくは文献明記の方法とする。

サンプル

本文内：三上彰⁽¹⁸⁾が指摘する・・・

注：(18)三上彰『象は鼻が長い』くろしお出版、1964 年、pp. 218-219

(19)高橋哲「教育の公共性と国家関与をめぐる争点と課題」『教育学研究』72 巻 2 号、2005 年

[B]心理学を含む自然科学系

文章での補足説明は、注として本文末に通し番号を記述するようにする。また、本文中での参考文献、及び引用文献は次のように記し、それぞれに分けて文末中に著者名アルファベット順に記述するようにする。本文内での該当箇所は、いずれも下記のような記述とする。

サンプル

本文内：河合(1969)は、・・・

参考文献、引用文献：河合隼雄(1969)箱庭療法入門、誠信書房
伊藤良子(1988)箱庭療法の深さについて、箱庭療法学
研究、1(1)、pp. 3-16

本文内：河合³⁾は、・・・

注：3)ここでいう河合の「**」とは・・・

5. 校正

- (1)校正原稿の受け渡しは、事務局と落札会社の担当者が行う。
- (2)執筆者による校正は二校までとし、三校は編集会議において行う。なお、校正は発行日(3月1日)に支障のないよう、可及的すみやかに行わなければならない。

6. その他

- (1)抜刷は30部までを無料とし、それを超える分については執筆者の負担とする。
- (2)論集はオンラインジャーナルの形式で公開する。
- (3)抄録の著作権は大学に帰属するものとし、必要に応じて検索サイト等への情報提供が出来るようにする。但し、執筆者が教育・研究目的で利用する場合および将来著作集等を出版する場合には、著作権者(大学)に断りなく利用できるものとする。
- (4)発行スケジュール等については、その都度、編集会議で定める。
- (5)本誌に関わる規定に定めのない事項については、編集会議が判断し、判断が困難な場合は、研究推進機構会議にて審議する。
- (6)本規程の改廃は研究推進機構会議の議を経て、教育学研究科教授会が行う。

IV. 執筆に関する研究倫理と不正防止

- (1)執筆者は「佛教大学研究倫理指針」を遵守すること。
- (2)捏造、改ざん、盗用の特定不正行為を行ってはならない。
- (3)投稿された著述に特定不正行為があると研究公正委員会で認められた場合、該当の著述を本誌から取り下げる措置を行なう。